

ママを癌で亡くされた父子のお話

エイムス AIMSが僕たちに光をくれた

病気で親を亡くした子どもたちの心のケアに取り組むAIMS。18年間連れ添ってきた奥さまを亡くされた西野さん（仮名）ご家族は、AIMSに参加し、明るさを取り戻すことができたそうです。その悲しみから再出発までの物語をうかがいました。

【取材・文・撮影●鈴木健太】

奥さまに先立たれ 知らぬ間にうつ病状態に

西野さんが、医師に「奥さまの乳癌が脳に転移した」と伝えられたのは、2012年の10月でした。

「それを聞いたとき、さすがにがつくり来ましたが、妻や子どものためにあれもこれもしなきゃという思いが強まり、正直悲しんでるヒマはありませんでした。もちろん、医学的データから見ても、一年もたないかもという覚悟はしていました。」

そのとき、息子さんの良平くんは4歳。西野さん夫婦は、なるべく隠さず病のことを伝えていたそうです。「突然、母親がいなくなるという方がもっと混乱しますから。闘病中も3人で暮らしていましたし、かわいそうだけど事実を見せてあげた方がいいという思いでした。」

奥さまは「私は60歳まで生きて良平に赤いちゃんちゃんこを着せてもらうの」と生きる希望を強く持ち続けましたが、翌年6月、天国へと旅立たれてしまいました。

「良平には『お母さんは病気に負けてしまったんだよ』と伝えました。そのときは『えーっ!?!』と大声を上げましたけど、泣いてはいなかった。恐らく葬式の時も母親の死を理解しきれなかったと思います。」

奥さまの永眠後、ふたりでの新たな生活が始まりました。西野さんは、これまでの生活スタイルを変えず、ご親族のサポートも極力受けなかったそうです。

「妻も私も自分たちの気持ちは押し殺し、最期まで本当に普段通りに過ごしました。僕ら3人で固い絆の家族が成立していたんです。それは2人になっても変わらない。そこに違う人が入り込んでくるのが、どうしても受け入れがたくて。私の母もサポートしたいと家に来てくれたのですが、僕が3日で耐えきれなくなり帰ってもらうことにしました。」

そんな中、自分が子育てをしなくてはという思いが強すぎたのか、体に変調をきたしはじめた西野さん。3日間眠れない日もありました。

「後日、心療内科に行ったら『完全なうつ病だね』と言われました。自覚はなかったのですが、やはり妻を亡くしたことで、その後の生活のことでストレスが溜まっていたんですね。」

子どもは自分以上に傷を負っているかも知れない

そのことを高校時代の同級生に相談したとき、その友人が教えてくれたのがAIMSでした。

「当初、良平は母親の死への反応が薄いように見えたので『まだ小さいから何も分かってないのかな』とのんきに考えてたんです。ただ、保育園でトイレに行くことを先生に言えず、おもらしをよくしていると聞き、『良平は自分以上に傷を負い、なにか心理的負担を抱えているかも』とかすかに思うようになりました。そんなとき、AIMSのホームページを見た『子どもの心のケア』への必要性が謳われていて……。」

長男・良平くん（仮名） 7歳
今年の春に小学2年生になる
元気な男の子。

AIMS設立のきっかけは……

AIMSは、現代表・高井伸太郎さんのお姉さまである故・小林真理子さん（元NHKアナウンサー）の強い想いからスタートしました。

2011年、43歳という若さで小林さんは逝去されました。「風邪もひかない元気な体質」とご本人も思っていたのですが、体調の異変に気付いたときには胃癌のステージIV。「卵巣にも腹膜にも転移している」と主治医から余命を告げられました。「自分のことはすぐに受け止められけれど、何より心配だったのが幼い娘のこと、その心でした」と生前の小林さんは記しています。



娘さんを抱っこする、
元気だった頃の小林真理子さん。

に伝えられない娘の心のケアはどうしたらいいのか——調べていくと日本にはそのようなケアやサポートを中心に行っている組織がなかったのです。「ならば、私が創ろう」。母としての大きな想いが、AIMS設立の第一歩目でした。